



平成30年度スーパーサイエンスハイスクール実施計画の概要【実践型】

指定期間 30~34	ふりがな 学校名	がっこうほうじんたまがわがくえん たまがわがくえんこうとうぶ ちゅうぶ						所在地	194-8610 東京都町田市玉川学園 6 - 1 - 1
これまでの指定期間		20 ~ 24 (第1期), 25 ~ 29 (第2期)							
学科名	生徒数							研究開発の実施規模	
	中1年	中2年	中3年	高1年	高2年	高3年	計	中学1年~高校3年生までの全員	
普通科	190	193	189	242	240	214	1268		
研究開発課題名	主体性を涵養し、社会的責任を配慮した『社会との共創』を実現できる教育手法の開発								
研究開発の概要	「社会との共創」を推進するために、自らが見出した寄与できそうな事柄に対して意義や社会的責任を予測した上で、自らの責任において選択実行する主体性を様々なレベルでの対話やリフレクションを通じて育成することで、社会にイノベーションを起こせる人材を育成する教育手法を開発する。								
研究開発の概略	<p>(1) 目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 目的 主体性を育てることにより社会的責任を視野に入れた研究活動ができる人材を育てる。 ■ 目標 ア、創造力と批判的思考力を育てることで研究内容を高めることができるようにする。 イ、批判的思考力を育てることで客観的な自己評価ができるようにする。 ウ、自己効力感を育てることで主体性を育むことができるようにする。 エ、統計思考力を育成し、責任とリスクを考えさせることで社会貢献ができるようにする。 <p>(2) 現状の分析と研究の仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現状の分析 第2期 SSH 指定以降、SSH 活動が活発になり課題研究を実施する生徒が増加している。一方で増加した結果、生徒自身一人ひとりの自己コントロール(計画性・主体性・自己認識力・発表姿勢)に関してばらつきが生じている。自己コントロールでき、積極的に課題研究等に取り組む生徒は、課題研究成果を上げている。しかし、中間層の生徒については、積極性不足、モチベーション維持問題、課題研究のデータ分析処理に関する客観性・公正性が不十分であることが明らかになった。SSH 第2期の研究課題においてキーワードであった「創造性」や「批判的思考力」の手法は確立されてきている。第3期では生徒自らの「気付き」の育成、「主体性」の醸成を目指すものとする。自己中心的な主体性でなく、広義の意味において社会へ貢献できる人材育成を科学分野の研究活動から模索する。 ■ 研究開発の仮説 ① 研究活動には創造力や批判的思考力とともに、土台としての主体性の力が必要である。 ② 主体性は、以下の6つの「契機(しかけ)」を有機的に組み合わせることで効果的に育成することができる。【Ⅰリフレクション、Ⅱふれる、Ⅲリサーチ、Ⅳ発表、Ⅴ学びあい、Ⅵ活動】(以下Ⅰ~Ⅵをまとめて主体性ペンタゴンと記す。) <p>(3) 研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>キャリア講座・授業・課題研究を通して、これまでの形成的・総括的評価による批判的思考力と創造力に加え主体性ペンタゴンを利用し主体性を有機的に構築育成する。検証は学力テスト、アンケート結果の統計的評価を用いる。客観評価はベネッセ総合研究所と連携している「批判的思考力テスト」を行う。また主体性ペンタゴン育成はリフレクションの「OUT COME シート」の変容によって検証評価する。</p> <p>(4) 科学技術人材育成に関する取組内容・実施方法</p> <p>課題研究を通じた経験の蓄積が、将来、科学技術の分野で活躍できる人材育成につながる。根気強く研究に取り組み、成果を出すためのモチベーションを持続させる工夫として、①本物に触れる、②目標設定、③成功(失敗)体験、④大学教員へ研究相談、がある。これらの体験や試行錯誤を通し、自ら答えを出す喜びに気づき、主体的に動く人材へ成長する。</p> <p>(5) 科学技術人材育成重点枠の取組(該当がある場合のみ)：なし</p> <p>(6) 成果の普及</p> <p>探究型学習研究会・生徒研究発表会を通して主体性育成カリキュラムについて成果を発表し普及する。地域への連携、研究成果を社会へ貢献する機会を設ける。</p> <p>(7) 課題研究に係る取組</p> <p>「自由研究」で使用する教材のテキスト化を進める。主体性育成に必要な自己効力感を確立していくために、課題研究全体で「OUT COME シート」を定期的に作成させ、生徒と教員間で話し合いやディスカッションを行う。継続的なディスカッションを通して課題研究や自由研究の取り組みを適切に位置づけ、自分自身にとっての研究の位置づけや意義、研究の目的を考えさせていく。</p> <p>(8) 必要となる教育課程の特例等：なし</p>								
その他特記事項	平成21年4月より併設型中高一貫教育校として実施								